

日本都市社会学会ニュース

NO. 85 (2010.3.31)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

明治学院大学社会学部浅川達人研究室内

e-mail：usocio@mail.meijigakuin.ac.jp

FAX：03-5421-5356（番号が変わりました）

（振替口座：00140-4-703976）

URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/urbansocio/

歓迎の言葉

後藤範章（日本大学）

日本都市社会学会の第28回大会を、日本大学文理学部でお引き受けすることになりました。大勢の皆様にご参加いただき、実り多き大会になりますことを念じております。

日本大学は、1889(M22)年に創立された日本法律学校を前身とし、昨年120周年を迎えました。14学部・20研究科・学生総数（大学院生を含めて）約7万3千人を擁する総合大学ですが、学部毎にキャンパスが異なるため、各学部が独立した1大学のような様相を呈しております。1901(M34)年に設置された高等師範科を前身とする文理学部は、文・社・理系にまたがる17学科、学生数（大学院生を含めて）約9千5百人からなり、キャンパスは世田谷区桜上水にあります。社会学科は1920(T9)年に創設され（私立大学で最初の社会学科とされています）、今年で丁度90周年を迎えます。

当学科には、助教以上の専任教員が社会福祉コースの5人を含めて21人おりますが、うち都市社会学会の会員は、私以外に助教の松橋達矢氏とこの4月1日に専任講師として着任する山北輝裕氏の3人。学部生・大学院生共々、皆さまを温かくお迎えし、過去の大会と同様、永く記憶に留めていただける大会にしたいと、皆張り切っております。

当学部は東京の都心部ではなく、JR山手線の外側に広がる「郊外」に立地しておりますが、新宿から最寄り駅まで電車で10分の時間距離ですので、都心へのアクセスも良く、特に宿泊される皆さまには滞在期間中に多彩な「東京」を存分に味わっていただければと思います。後掲の「交通・宿泊案内」にミニ・フィールドトリップのお勧め（絵になる）スポットを9つ紹介しておりますのも、このためです（必ずしも目新しいものではありませんが・・・）。

大会2日目の午後には、開催校企画の一般公開シンポジウム「歩く・見る・聞く・撮る・魅せる 都市の映像社会学 ー映像フィールドワークと都市社会学ー」を開催することになっております（概要を後掲）。都市社会学会の会員だけでなく、回りにいらっしゃる非会員で「映像」に関心をお持ちの教員・大学院生・学部生の方々にも、ぜひお声掛け下さい。

皆さまのご来校を、心より「大」歓迎致します。

会費納入についてのお願い

会費の納入率は現在、70%を割るなど大変厳しい状況にあります。このままでいきますと、来年度には繰越金が底をつく深刻な事態も予想されます。大会の開催、年報の発行など学会活動は、すべて会員の皆様が納入される会費によって支えられています。本ニュースにも振り替え用紙が同封されていますので、ぜひとも納入のほどよろしく願いいたします（すでに納入済みの皆さまは、次回以降、本用紙をご利用いただければ幸いです）。

（会長 町村敬志）

1. 日本都市社会学会 第28回大会開催について

期間 2010年9月11日(土)~12日(日)

主会場 日本大学文理学部 百周年記念館

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部のホームページ URL <http://www.chs.nihon-u.ac.jp/>

2. 交通・宿泊・フィールドトリップのご案内

◎学部の最寄り駅並びに駅から文理学部キャンパスまでの所要時間は、京王線の下高井戸駅/桜上水駅（徒歩で8~10分程度）、東急世田谷線の下高井戸駅/松原駅（松原駅から徒歩で15分程度）、小田急線の経堂駅（徒歩で15~20分程度）です。一番分かりやすい下高井戸駅を利用されることをお勧めします（下高井戸駅から線路を交差する道路（日大通り）をそのまま真っすぐ歩いていけば学部にたどり着きます）。但し、京王線をご利用の場合には、急行・準特急・特急は止まりませんので、各駅停車か快速電車に乗って下さい（桜上水駅には急行も止まります）。



【飛行機利用の場合】

羽田空港—(京浜急行)→品川—(JR山手線外回り)→新宿—(京王線)→下高井戸/所要時間約1時間、片道740円 <または> 羽田空港第1ビル(JAL利用)/第2ビル(ANA利用)—(東京モノレール)→浜松町—(JR山手線外回り)→新宿—(京王線)→下高井戸/所要時間約1時間10分、810円

【東海道・東北・上越・長野新幹線利用の場合】

東京—(JR中央線・快速)→新宿—(京王線)→下高井戸/所要時間約30分、片道340円

※ 東海道新幹線・品川下車の場合：品川—(JR山手線外回り)→新宿—(京王線)→下高井戸/所要時間約35分、片道340円

(注) 乗り換え回数が少なく、料金（2010年3月現在の）も安く、分かりやすい代表的なルートを示しています。所要時間は、最初に乗車してから最後に下車するまでの時間を表し、途中の乗り換えに要する時間も含めています。

◎下高井戸駅を基点にすると、京王線の新宿・笹塚・調布、東急世田谷線の豪徳寺・三軒茶屋、京王新線・都営新宿線の幡ヶ谷・新線新宿・市ヶ谷・九段下・神保町、京王井の頭線の渋谷・下北沢・吉祥寺・駒場東大前、JR山手線の新大久保・高田馬場・原宿・恵比寿、JR総武線・中央線の千駄ヶ谷・信濃町・四ッ谷・大久保・中野、などの各駅が全て20分圏に含まれます。京王線沿線と世田谷線沿線なら乗り換えなし。京王新線・都営新宿線沿線（笹塚駅ホームで京王線に接続）と京王井の頭線沿線（明大前駅で乗り換えて1つ目が下高井戸駅）なら、乗り換え1回。JR山手線沿線や総武線・中央線沿線も乗り換え1回ですが、新宿でのJR線から京王線への連絡が複雑で分かりにくい

も知れません。ここに挙げた駅の周辺は、どこも宿泊施設が豊富で（1泊3,4千円程度で泊まれる格安ホテルもあり）、選り取り見取り、です。宿泊先は、宿泊予約サイト等でお探し下さい。

- ◎ミニ・フィールドトリップのお勧めスポット（近場）を、9つ紹介しておきます（勿論、大会開催時を避けていただくということで（笑））。
- 1) 新宿：日本一の歓楽街・歌舞伎町、歌舞伎町に隣接するコリアンタウン（大久保）、ゲイバーの一大集積地・新宿二丁目、日本一の超高層ビル街・西新宿、1日の乗降客数約350万人の世界一巨大な鉄道交通の集結点（11路線が乗り入れ）等々、いくつもの顔を持っています。新宿駅から京王線の各駅または快速電車に乗って約10分、150円。
 - 2) 下北沢：演劇の街。学生の街。シモキタ。再開発問題で揺れています。下北沢駅から京王井の頭線に乗り、明大前駅で京王線に乗り換えて、約10分、120円。
 - 3) 渋谷：東急資本と西武資本によって街の骨格が形成された、日本を代表する若者の街。井の頭線改札口に通ずるコンコースに設置してあるパブリックアート（岡本太郎作の巨大壁画「明日の神話」）も見ものです。渋谷駅から京王井の頭線に乗り、明大前駅で京王線に乗り換えて、約15分、130円。
 - 4) 吉祥寺：井の頭公園やハーモニカ横丁のある若者の街。音楽の街。ジョージ。三鷹の森ジブリ美術館もあります。吉祥寺駅から京王井の頭線に乗り、明大前駅で京王線に乗り換えて、約20分、150円。
 - 5) 神田神保町：世界一の古本屋・書店街。日本のカルチュエ・ラタン。神保町駅から都営新宿線に乗り、笹塚駅で京王線に乗り換えて（降りたホームの反対側で京王線に接続）、約20分、340円。
 - 6) 三軒茶屋：東急世田谷線随一の繁華街。世田谷区で一番高い（124m）ニンジン色をした「キャロットタワー」もあります。三軒茶屋駅から世田谷線に乗り、乗り換えなしで約20分、140円。世田谷線は三軒茶屋駅一下高井戸駅を結ぶ路面電車で、都内では都電荒川線とここしか走っていません。
 - 7) 原宿：かつての天皇制国家の意思が刻印される（明治神宮・表参道・神宮外苑）一方で、外資を主とする高級ブランド店とファストファッション店が入り乱れるファッションの街、流行の一大発信拠点でもあります。原宿駅でJR山手線に乗り、新宿駅で京王線に乗り換えて、約20分、280円。
 - 8) 信濃町：創価学会本部や聖教新聞社、関連施設が集積し、三色旗があちこちにはためく創価学会の街（外苑東通の東側。反対側には慶應大学病院などがあります）。信濃町駅からJR総武線に乗り、新宿駅で京王線に乗り換えて、約20分、280円。
 - 9) 築地市場：日本一の魚市場。早朝（午前5時～6時15分）には冷凍マグロ卸売場でセリが公開され、外国人観光客が沢山訪れます。築地市場駅から都営大江戸線に乗り、新宿駅で京王線に乗り換えて、約30分、410円。

宿泊地を決める上で、多少なりともご参考になれば幸いです。

(大会開催校)

会員の皆様へのお知らせ

1. 自由報告の募集 ※申し込み方法にご注意ください

第28回大会の自由報告を募集します。どうぞふるってお申し込みください。

なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の「学会ニュース」(第86号)に自由報告要旨を掲載することになっております。

自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に
行ってください。

(1)自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法（締め切り：2010年6月6日（日））

次のa)～e)をA4サイズ1枚に記し、保存した文書ファイルを、**6月6日（日）午後6時までに学会事務局（usocio@mail.meijigakuin.ac.jp）宛に、E-mailに添付してお送りください。**

a)報告タイトル（仮題は不可です）、b)報告者氏名・所属（共同報告の場合は登壇者に○をつける）、c)報告要旨（50字×20行以内を厳守）、d)発表時に使用する機材、e)連絡先（郵便番号・住所・電話番号・E-mailアドレス）。

なお、使用する機材については、会場の都合により不可能となる場合もあります（パワーポイントを使用する場合、PCは持参していただきます）。また、申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2)注意事項（必ずお守りください！）

共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。

添付ファイルは、原則としてテキスト形式とします。ただし、Microsoft Windowsを基本ソフトとするパソコンで作成したものに限り、「Microsoft Word(2003, 2007)」形式でも結構です。

- 1)「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース1頁に2報告の要旨を掲載します）。
- 2)この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- 3)なお、大会当日にレジュメ／資料を配布する場合は、各自で別途ご用意ください。

＜自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出＞

締め切り：6月6日（日）午後6時までに事務局必着

申し込み・報告要旨原稿提出の方法：E-mailによる

申し込み・報告要旨原稿提出先：学会事務局 usocio@mail.meijigakuin.ac.jp

2. 理事会報告

2009-2010年度第3回理事会が3月7日（日）午後3時から明治学院大学で開催されました。会長報告では、学会年報の電子アーカイブ化の件、韓国・地域社会学会出席の件、社会学系コンソーシアム関連について報告が行われました。事務局（浅川事務局担当理事）から、2010年2月末現在の学会費納入状況について調査した結果が示され、2005年度から2009年度までの未納金の合計額が1,521,000円にのぼることが報告されました。また、若手奨励賞について、入会および退会の承認について、次回大会について、次々大会などについて審議されました。

3. 企画委員会報告

＜研究会＞

12月13日、滋賀大学大津サテライトにおいて企画委員会主催の研究会を開催しました。妻木進吾会員から「都市と若者の貧困～「大阪フリーター調査」と大阪市の被差別部落実態調査報告」、堤圭史郎会員から「都市とホームレス～「大阪ネットカフェ調査」の紹介」の二つの報告があり、議論しました。

妻木報告では、同和対策事業の終了後、同和地域が貧困者の受け皿になって、新たな住民を増やしていることや同地域出身者がその外縁に滞留することなどが報告され、同地域がスラム化する可能性等について活発な議論が交わされました。堤報告では、「ネットカフェ難民」と呼ばれている人々への聞き取り調査から、自分たちとホームレスや寄せ場労働者を区別する意識が強いこと等の知見が報告され、歴史的にみて都市が不安定就労の単身者をどのように受容してきたのか、といった点をめぐって議論が交わされました。参加者は7名でしたが、とても密度の濃い議論がなされました。

<第28回大会>

12月の研究会を踏まえて、第28回大会では、テーマ部会「『都市の貧困』研究への新たなアプローチ（仮）」を開催します。現在、登壇者、司会者は確定してその他詳細をつめている段階です。次回の日本都市社会学会ニュースで改めてお知らせする予定です。

またシンポジウム「歩く・見る・撮る・魅せる 都市の映像社会学—映像フィールドワークと都市社会学」を開催します。詳細は、<シンポジウム概要>をご覧ください。

(常任理事・企画委員長 早川洋行)

<シンポジウム概要>

<<大会開催校企画の一般公開シンポジウム>>

歩く・見る・聞く・撮る・魅せる 都市の映像社会学 —映像フィールドワークと都市社会学—

【日時】2010年9月12日(日) (大会2日目) の午後

【趣旨】映像で記録する／映像を資料とする／映像で考える／映像で表現する調査研究の手法が、今改めて注目されるようになってきている。しかし、都市社会学の領域では、映像フィールドワークの実践や映像を用いた研究は、従来あまり積極的に行われてこなかった。そこで、本シンポジウムは、都市社会学研究に映像的方法／映像フィールドワークがどの程度有用性を持ち得るのかを実際の映像作品を通して探究し、調査研究の新たな可能性を拓くことを目指すものである。なお、ここで言う「映像フィールドワーク」は、写真（静止画）ではなく主にビデオ（動画）を使ったものを念頭に置いている。

【報告と映像作品の上映】1.ハワイの日系人二世や大阪・猪飼野のコリアンタウン、タイやサモアなどで「映像フィールドワーク」を精力的に実践され、成果を蓄積されておられる山中速人氏（関西学院大学総合政策学部教授）には、映像フィールドワークの手法がどのようなもので、またどのような豊かさを有しているのかを、都市社会学研究との接点を持つ猪飼野の映像の上映を通して語っていただく。2.イタリアのシエナや都市社会学を生んだアメリカのシカゴ等での現地取材を放送大学の撮影スタッフと共に実施され、文字通り、映像で記録し／映像を資料とし／映像で考え／映像で表現する「TV番組教材」を制作し放映してこられた倉沢進氏（東京都立大学名誉教授）には、都市社会学の内部に「映像フィールドワーク」「映像的手法」をどのように埋め込んでいったら、「都市社会学の豊穡」をもたらすのかといった道筋（可能性）について語っていただく。

【討論者】1.前任校の法政大学社会学部時代、「ドキュメンタリーは映像を使った社会学だ！」を合言葉に、ゼミでドキュメンタリー制作（企画・取材・撮影・編集・作品の上映）を学生と共に実践し、現在、東大大学院でも映像制作という実践的な授業を展開しておられる丹羽美之氏（東京大学大学院情報学環・学際情報学府准教授）には、社会学を学ぶ学生・大学院生との協働による映像制作を積み重ねている立場から、特に倉沢氏の番組（都市社会学者とプロの映像制作者との協働による映像作品）と報告に対してコメントしていただく（氏の学生・院生たちが制作した作品も上映の予定）。2.谷富夫氏（大阪市立大学大学院文学研究科教授）には、（良い意味で）都市社会学におけるオーソドックス

クスなフィールドワーカーを代表して、谷氏の主フィールドの1つでもある猪飼野のコリアンタウンの映像（山中氏の）から何を読み取るのか、また、映像フィールドワークの持つ可能性と共に、映像フィールドワークで捉えることができないものがあるとすれば、それは一体どのようなものなのかについてコメントしていただく。

【司会】企画委員の高木恒一（立教大学）と後藤範章（日本大学）が担当する。

【付記】映像制作や映像フィールドワークを実践する大学・大学院の学生・院生・教員にも広く参加を呼びかけたい。「一般公開」とする本シンポに限り、非会員の方々は参加無料とする方向で検討中。

（企画委員／大会開催校 後藤範章）

4. 編集委員会報告

『年報』28号は9月に開催される第28回大会で皆様に配布する予定です。今回の年報では、昨年第27回大会で開催されたシンポジウム「世代と移動の都市社会学」ならびにテーマ部会「アジア都市の現在」に関する特集を掲載する予定です。その他、例年通り、自由投稿論文、書評などが掲載されます。目下、編集作業を行っております。

ところで、自由投稿論文の投稿に関して、今回若干の混乱がありましたので、この場を借りてご報告とお詫びを申し上げます。実は、執筆要項について、最新号の年報およびホームページの両方に、まちがいがありました。一部古い規定が残っていたり、必要な記述が落ちていたりということで、投稿者の方々には大変ご迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。現在、ホームページは正しい執筆要項になっておりますので、当面はこちらをご参照ください。次号年報には正しい執筆要項を掲載いたします。

なお、これらのまちがいにともなう混乱（主として英文要約の取り扱いに関することでした）については、すでに投稿者の不利益にならないような処置を、今回に限って行っております。次号からの投稿については、正しい執筆要項にもとづく、従来通りの扱いとなりますので、会員の皆様にはご承知おきいただければ幸いです。誠に申し訳ありませんでした。

（常任理事・編集委員長 玉野和志）

5. 学会誌「日本都市社会学会年報」の電子アーカイブ化作業の中間報告

前号の「学会ニュース」でお知らせした本学会「年報」の電子アーカイブ化について、その後の進捗状況をご報告します。

昨秋以降、「年報」のバックナンバーの電子アーカイブに向けた作業を進め、本年1月27日に作業仕様書の作成を完了し、JST（日本科学技術振興機構）に送付しました。しかし実は、昨年11月27日にJSTの担当者から「09年度分のデータ作成業者の容量がほぼ埋まってしまい、年度中の作業が困難になった」との通知がありました。そこでJST担当者と相談の結果、仕様書じたいは完成させ、予算がつき次第、すぐにJSTの委託業者が作業できる態勢を作っておくということで作業を進め、完了した次第です。当初は2010年度秋頃にアーカイブ化が実現し、ウェブ上で公開できる予定でしたが、その時期がずれ込むことになりましたので、ご報告申し上げます。

掲載を予定しているのは、創刊号の巻頭言、12号までのシンポジウム、公開セミナー、ラウンドテーブル集会、テーマ部会のほか、13号以降の特集論文、特集コメント論文、自由投稿論文、研究ノート、書評論文、リプライ、大会自由報告要旨です。

なお、JSTに送付した仕様書では、「年報」のバックナンバーの論文のうち、外国文献等から写真を転載している場合は執筆者と相談のうえ、著作権上問題があるものを削除しました。著作権についてはこれまでのところ、会員からの特段の申し出はありませんが、もし何かございましたら、事務局を通じてお知らせ下さい。

（常任理事 渡戸一郎）

6. 韓国地域社会学会との交流について

企画委員会、国際交流委員会で協議し、さらに理事会の決定として、国際交流の一環として、今秋の研究大会に韓国地域社会学会の会長と2人の先生をお招きすることになりました。これは昨年、町村会長が先方より招待されたことへの応答と今後の交流の意向を表してのことになります。会長には大会初日の総会の前にご講演をいただき、2人の先生には自由報告部会で研究報告（共同）をしていただくことになりました。内1人は本学会の会員ではありませんが、国際交流ということでご報告を認める、また、招待にかかる経費については日本社会学会の国際交流に準じて考えるということになりました。研究のグローバル化が必要になっている今日です。この交流が本学会と韓国地域社会学会の持続的な交流の出発として、意義深いものになることを期待します。なお、今後の検討事項として、韓国地域社会学会を含め、国際交流の合意文書を作成し、先方と取り交わすという手続きが必要になるかと思いません。

(理事・国際交流委員会委員長 青木秀男)

7. 『日本都市社会学会年報』 29号 (2011年発行)

自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』29号(2011年発行)に掲載する「自由投稿論文」, 「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』28号(2010年発行)に掲載される編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2010年11月30日(消印有効)までに編集委員会事務局あて、余裕をもって郵送して下さい。なお25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

(常任理事・編集委員長 玉野和志)

〒192-0397
八王子市南大沢1-1
首都大学東京人文科学研究科社会学分野 玉野和志研究室気付
日本都市社会学会編集委員会事務局

電話・FAX：03-3489-7230
E-mail：tamano@k.email.ne.jp

8. 学術機関誌「都市社会研究」への投稿論文の募集について

せたがや自治政策研究所(世田谷区が設置した自治体シンクタンク)は、区民の皆様や学生、研究者の方々の日ごろの研究の成果を発表する学術機関誌「都市社会研究」を平成20年度より発行しております。「都市社会研究」への論文掲載は、当研究所内に学識経験者による編集委員会を置き、査読・審査のうえ決定します。投稿論文は、下記により募集しておりますので、皆様の応募をお待ちしております。(正式な応募につきましては、平成22年4月15日以降に世田谷区HPで募集いたしますが、それ以前につきましては、昨年度の募集の案内をご確認ください。)

編集委員会委員	大杉 寛	首都大学東京大学院社会科学部研究科教授
	後藤範章	日本大学文理学部社会学科教授
	玉野和志	首都大学東京大学院人文科学研究科教授
	原 昭夫	自治体まちづくり研究所長
	板垣正幸	世田谷区政策経営部長

1. 募集期間 平成22年9月30日まで

2. 募集内容

(1)投稿論文：学術論文（テーマは自由とします） 原稿2万字以内。

※投稿論文は、都市社会の構築に関連する研究の発表にあてる。研究分野は、社会学、行政学、財政学、その他社会福祉・環境・教育・都市計画等の都市政策研究及び自治体の政策に関するものとします。

(2)研究ノート：自らの研究をまとめたもの（テーマは自由とします）原稿16,000字以内。

※研究上の問題提起のほか、自治体の政策に関するものとします。

3. 執筆要領 執筆要領の詳細は、世田谷区のホームページをご覧ください。

4. 提出方法 郵送によります。9月30日(消印有効)までに、下記送付先へお送りください。

送付先 〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27 せたがや自治政策研究所あて

5. 問い合わせ先 せたがや自治政策研究所(世田谷区役所内)

電話 03-5432-2243

会員異動

新入会員（2010年3月7日理事会承認）

<北海道・東北>

前山総一郎 八戸大学

<関東>

山田千絵 杉並女性団体連絡会

伊東秀明

横浜市磯子区役所

三田泰雅 東京都立大学大学院

二瓶 徹

法政大学大学院

退会

<北海道・東北>

河田 亨 福島民放社

<関東>

矢澤澄子 東京女子大学

似田貝香門

東京大学名誉教授

舟田鶏津子 横浜市芸術文化振興財団

山本唯人

(財)政治経済研究所

大井 紘 常磐大学

陳 香蘭

専修大学

柄田明美 (株)ニッセイ基礎研究所

原田真知子

国際基督教大学

<中部・関西>

久野聖子 同志社大学

甕 佳代子

名古屋大学

<中国・四国・九州>

新 睦人 広島国際学院大学

中村晋介

福岡県立大学

学会事務局より

会費納入のお願い

前号の「学会ニュース」に引き続き、今号にも学会費の振替用紙を同封させていただきました。まだ学会費を納入されていない会員の方は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入していただきますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）と相互に振込ができるようになりました。振替用紙を使わずに振り込むことができますし、振込記録は事務局宛に送られてきますので、事務局が振込を確認することもできます。他の金融機関から本学会の口座に振込む場合に必要な情報につきましては、前号（第84号）ニュースをご覧ください。

◆前事務局（立教大学江上研究室）が作成してくださった、会員名簿を同封いたしました。

◆事務局のFAX番号が変更となりました。新しいFAX番号は、03-5421-5356です。

（事務局担当理事 浅川達人）